

とのちのオーディオルーム 補足資料



2018/01/31

用語集

とのちのオーディオルーム 用語集

ADP (Analog Disc Player)

アナログ盤を再生する装置。レコード・プレーヤーのこと。アナログ・ディスク・プレーヤーあるいは AD プレーヤーの略。

DAP (Digital Audio Player)

デジタル・ソースを再生するプレーヤーのこと。CD プレーヤー、SACD プレーヤー、HDD プレーヤーなどを指す。

DUT (Device Under Test)

被測定装置のこと。

THD (Total Harmonic Distortion)

全高調波歪率のこと。

VTA

Vertical Tracking Angle (VTA) describes the angle between a line, from cantilever pivot to stylus contact area, and the record surface.

アナログ・ソース (analog source)

アナログ盤のようにアナログ信号を記録している音楽メディア。

アナログ・ディスク・プレーヤー、AD プレーヤー (Analog Disc Player)

アナログ盤を再生する装置。レコード・プレーヤーの正式名称。

アナログ盤、アナログ・レコード (vinyl record, vinyl disc, vinyl, analog record, analog disc)

アナログ・レコードが正式名称と思われるが、オーディオファイルの間ではアナログ盤と呼ばれることが多い。このホームページの中でもアナログ盤と呼ぶことにする。

アンバランス型 (unbalanced)

不平衡型とも言う。信号を伝送するのに2本の電線を用いる方式。1本は信号電流のみが流れる電線で、残り1本はシールドのための網線であり、グラウンドに接続される。この網線には信号電線のリターンも流れる。網線は信号線を包む構造になっている。アンバランス型には通常1芯シールド線を用いるが、Gaudi II のように2芯シールド線を用いて、信号電流のリターンと雑音電流が同じ線(網線)を流れないようにする方法もある。オーディオ分野では、コネクタに RCA プラグ/ジャックを用いる。

アンプ (amplifier)

増幅器のこと。大別すると、電圧増幅とボリュームなどのコントロールを行うプリアンプと、電力増幅を行うパワーアンプがある。チャンネル・デバイダーやイコライザーもアンプに分類できる。

インサイドフォース・キャンセラー (anti-skate mechanism)

レコード針が音溝をトレースする時、内周方向に力が発生する。つまり、ピックアップが内周に向かって引っ張られるような力(インサイドフォース)が働く。これを打ち消すために、ピックアップに外周方向への力を加えるメカニズムをインサイドフォース・キャンセラーという。高級トーンアームが必ず備えている機能である。

ウーファー (woofer)

低音専用のスピーカー・ユニット。

ウーファー・アンプ (woofer amp)

ウーファー用パワーアンプのこと。

エンクロージャー (enclosure)

スピーカー・ユニットを収納する箱。キャビネット、スピーカー・ボックスと呼ぶこともある。

オーディオ・システム (audio system)

音楽を再生するためのシステム。基本的な構成要素は、プレーヤー、アンプ、スピーカーである。

オーディオ装置以上に音質を左右するのが、システムを設置する部屋の音響や AC 電源のクオリティである。従って、Gaudi II では、部屋と部屋に供給される AC 電源もオーディオ・システムに含むことにしている。

音楽性を強調するために、ミュージック・システムと呼ぶこともある。

オーディオファイル (audiophile)

オーディオを趣味とする人。一般にはオーディオ・マニアと呼ばれることが多いが、「マニア」という単語にはネガティブな意味もある(変態など)ので、ここではオーディオファイルと呼ぶことにする。

時間領域 (time domain)

周波数帯域、周波数レンジ、f レンジ (frequency band, frequency range, f-range)

周波数領域 (frequency domain)

スクォーカー、ミッドレンジ (squawker, midrange)

旧ホームページでは、「ミッドレンジ」で統一していましたが、この用語にはスピーカー・ユニットを示す意味合いがありません。単に周波数レンジを表しているだけです。今後はミッドレンジを受け持つスピーカー・ユニットをスクォーカーと呼び、中音域を表す時にミッドレンジということにします。

スクォーカーという用語を避けていたのは、この言葉に「ガーガー鳴るもの」や、「ブーブー不平をいう人」という意味があり、品の良い言葉ではないためです。しかし、曖昧さを回避するために、この用語を使うことにしました。

スクォーカー・アンプ (squawker amp)

スクォーカー用パワーアンプのこと。

スピーカー (loudspeaker)

電気信号を音に変換するオーディオ装置。オーディオ・システム中で最も音質を左右する装置である。

スピーカーとして完成している装置を、特にスピーカー・システムと呼ぶこともある。スピーカー・システムは、単数または複数の SP ユニットとエンクロージャーから構成される。

スピーカー・ユニット、SP ユニット (loudspeaker unit, LS unit)

エンクロージャーに取り付けられていない状態のスピーカー。

高音用の SP ユニットはツイーター、中音用はミッドレンジまたはスクォーカー、低音用をウーファーという。

全高調波歪 (THD: Total Harmonic Distortion)

ダイナミック・レンジ、D レンジ (dynamic range)

オーディオ機器が扱う音声信号の最小値と最大値の差(正確には比)。単位は dB (デシベル)。例えば、D レンジ 120dB は、最小値と最大値の比が 100 万倍であることを表す。

オーケストラの最少音と最大音の比は 120dB と言われている。オーディオ・システムが目標とする D レンジである。

ダンピング・ファクター、DF (damping factor)

DF と略されることが多い。アンプの出力に接続される負荷のインピーダンスを、アンプの出力インピーダンスで割った値。アンプの駆動力を表す。パワーアンプで重視される性能。

$$DF = R_L[\Omega] / R_o[\Omega]$$

例えば、負荷インピーダンスが 8Ω で、出力インピーダンスが 0.2Ω のとき、DF は 40 となる。

聴取位置、リスニング・ポジション (listening position)

ツイーター (tweeter)

高音専用のスピーカー・ユニット。

ツイーター・アンプ (tweeter amp)

ツイーター用パワーアンプのこと。

デジタル・ソース (digital source)

CDのようにデジタル信号を記録している音楽メディア。

トーンアーム (tonearm)

レコード・プレーヤーの構成部品のひとつ。

バランス型 (balanced)

平衡型とも言う。信号を伝送するのに3本の電線を用いる方式。うち2本は信号電流が流れる電線で、残り1本はシールドのための網線であり、グラウンドに接続される。網線は信号線を包む構造になっている。バランス型に使われるケーブルを2芯シールド線と呼ぶ。オーディオ分野では、コネクタにXLRコネクタ(キャノン・コネクタ)を用いる。

ひずみ率、歪率 (ワイリツと読むこともあり) (distortion ratio, distortion)

被測定装置 (Device Under Test)

測定対象となる装置(アンプ、スピーカーなど)。「被試験機」ということもある。

ピックアップ (pickup)

トーンアームとカートリッジを組み合わせたもの。

フォノ・イコライザー、フォノEQ、フォノ・アンプ (phono equalizer, phono EQ, phono amp)

フォノ・カートリッジ、カートリッジ (phono cartridge, cartridge)

レコードの音溝に刻まれている信号を読み取り、電気信号に変換する装置。通常は単にカートリッジと呼ぶ。

ヘッドシェル (headshell)

トーンアームの部品の一つ。カートリッジを取り付ける部品。多くのトーンアームは、ヘッドシェルを工具なしで簡単にトーンアームに取り付けたり、取り外したりできるようになっている。トーンアームとの接続部分は標準化されているので、他社製トーンアームに取り付けられる。ヘッドシェル単体でも販売されている。単にシェルと呼ぶこともある。

レギュレーション (regulation)

電圧安定度のこと。電源回路の性能を示す指標。負荷変動(取り出す電流の大きさの変動)や電源電圧変動(AC電源の電圧変動)に対して、出力電圧がどの程度変動するかを数値化したもの。「レギュレーションが良い」とは出力電圧変動が小さいという意味である。

レコード (record)

音楽情報を記録した媒体。アナログ・レコード(SP、EP、LP)、CD、SACD、DVD、Blu-rayディスクなどを指す。

ライブ(生演奏)に対する用語。

狭義ではアナログ・レコード(アナログ盤)を意味する。このホームページでは、他の用語との組み合わせでアナログ盤を意味することがある。例えば、「レコード・プレーヤー」はアナログ盤を再生するプレーヤーを意味する。単に「レコード」と記した場合は、音楽媒体全体を表す。

レコード・プレーヤー (record player)

アナログ盤を再生する装置。

とのがオーディオを始めた1970年代には、この名称が最も一般的だった。現在ではターンテーブル(略してTT)呼ばれるようになっているが、かつてTTは、トーンアーム、カートリッジおよびキャビネットを含まない、プラッターとモーターのみからなるパーツを指す用語だった。プレーヤーのことをTTと呼ぶのは、私としてはどうしても抵抗があるので、ここではレコード・プレーヤーと呼ぶことにする。

なお、レコード・プレーヤーは通称で、正式名称はアナログ・ディスク・プレーヤー(または AD プレーヤー)とする。ADP と略すこともある。

NOBODY Audio

とのちのオーディオルーム 補足資料